交通政策審議会観光分科会　第48回　議事概要

1.　日時

令和６年５月16日（木）14時30分～16時00分

2.　場所

中央合同庁舎第２号館12階　特別会議室

3.　出席者

安藤委員、加藤委員、鎌田委員、菊間委員、篠原委員、住野委員、武内委員、
原田委員、星野委員、萬年委員、宮川委員、宮島委員
観光庁

4.　議題

令和6年版「観光白書（案）」について

5.　議事概要

観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。
主な意見は以下のとおり。

○　委員からの主な意見

- ✓　「インバウンド消費動向調査」のローデータが公開されると承知しているが、主に研究分野での活用が拡大すると思う。ローデータ公開の取組について、積極的に白書に掲載いただきたい。今後はこれによる新たな研究成果についても掲載してはどうか。
- ✓　資料 12 ページの図表Ⅰ－39 について、「ショッピング」等の項目が上昇しているがハイライトされていない。意図せず誤解を与えないよう丁寧に説明いただきたい。
- ✓　リピーターとファーストビジターの比較は良いと思うが、今回のテーマである消費について、両者の違いが見えないのは残念。
- ✓　産業としての育成の観点から、地域の実態に合わせ、スタートアップ企業などに柔軟に使えるお金を支援することが重要。産業を担うべき若い人にとって魅力的な産業であることが必要であり、自分たちのやりたいことが自由にできるような業界であることを示すことで、参入が増え市場の活性化が期待できる。
- ✓　地方の個性が失われつつあるのではないか。観光立国として、地方に居住する方々の利便性の向上を図りつつ、魅力ある観光地としての、各地方の個性、独自性をいかに残していくかという点を考える必要がある。

- ✓ オーバーツーリズムの問題なども盛んに取り上げられるが、来ないでくれと拒絶する前に、日本側でできることはまだまだあるはず。キーワードは「分散」だと考える。外国人がまだ知らない観光地、イベントを日本側が積極的に発信することで場所の分散が図れ、四季折々の美しさを発信することで、来日時期の分散も図れるのではないか。
- ✓ 個々の施設の取組ではなく、地域全体を挙げてのエクスカーションみたいなものを考えて、全体として観光客の満足度を高める取組があると良い。
- ✓ インバウンドの質という点で言うと、最近来られる方の質は高いと感じる。「何もないところが良い」と、周りは田んぼと山だけといった環境の旅館に宿泊している欧米人のグループに遭遇したことがあるが、こういった、外国人側の感覚を捉えて、対応していくことが大事。
- ✓ 外国人は、SNSも含め、日本人以上にディスカバー・ジャパンをしている。面に広げていく、少なくとも点を線にしていく対応が各地域で必要ではないか。周遊ルートの再検証等、ストーリーやドラマ性を持たせると、地方誘客に繋がるのではないか。
- ✓ アウトバウンドは、円安や様々な要因が関係し、一朝一夕には解決しないと思うが、インバウンドをどう伸ばすかということは、アウトバウンドとのシナジーなので、是非力を入れていただきたい。
- ✓ JNTO は法律上、インバウンドのみ扱っているが、アウトバウンドにも携われるよう再検討してはどうか。
- ✓ 円安の状況で、訪日外国人の買物代が下がっている原因の深掘りが必要。
- ✓ 初来日割合が低いアジアの国・地域では、訪問先がゴールデンルート以外となる傾向が高くなると推察されるが、実態について深堀があると良い。
- ✓ SNSやデジタルマーケティングを活用して効果を出した好事例等を「観光白書」として取り上げるのも面白いのではないか。
- ✓ 訪日外国人の消費額として宿泊費が増加しているが、外資系ホテルの方が積極的に値上げしている状況の中、日本に落ちているお金がどのくらいか把握できると良い。
- ✓ 似たような取組を行った地域だが、賑わいに差がついている地域がある。その要因についてヒントがあると、地域の方にとっては良い。うまくいった事例には全体感がある。地域全体の地域における分野が違うものが結びつくようなインプリケーションがつくれると良い。
- ✓ 単一のホテルに子供向けのサービスがあるだけではなく、周辺を動き回る際に、子供や障害のある方、介護をしている方にとって、快適かどうかという視点が重要。
- ✓ 親が旅行している家庭の子供は学生になっても旅行をする傾向にあり、小さい頃に旅行することは観光全体にプラスになる。平日の家族旅行に関する教育現場の意識の見直しなど、家族で快適に旅行をするために取り組むべきことは多いと思う。
- ✓ 賃金の動向や生産性、雇用というところに着眼しているが、これからどう人材を育成し成長させていくかという視点で言えば、育成プログラムをしっかりと作って、そこに一定

の補助・支援を行い人材育成することが大事。

- ✓ 主要な駅や観光地では、地域の観光情報をまとめ、しっかりと情報発信する仕組みを是非作っていただきたい。
- ✓ オーバーツーリズムや渋滞対策として大事なのは、地域の交通と観光をどのように連携させるかだと思う。地域にはDMOがあると思うが、その中にいろいろな関係者が入り、地域や施設等と交通をマッチングさせるための仕組みづくり等も支援する必要がある。
- ✓ 入国に対して税をかけ、国内での観光需要に使用できるよう検討いただきたい。
- ✓ 新時代のインバウンド拡大アクションプランについて、引き続き推進していただきたい。観光白書には昨年度に講じた施策も盛り込むこととされているため、アクションプランに関連した内容についても、本文中で触れていただきたい。
- ✓ MICE の促進にあたっては、万博の開催前年である令和6年度の取組や準備が重要でもあるので、インバウンドにおける長期滞在、消費拡大に向けて、万博や万博のテーマウィークと MICE を関連付けた記載を、是非今年度の取組の中で触れていただきたい。
- ✓ 地方開催のコンベンション、MICE に関して課題が多い。例えば、コロナが明けてみると多くのケータリング会社が廃業していたり、宿泊施設が人員不足により100%稼働できないであったり、駅から会議場・展示場等の会場まで距離がある地方も結構あるが、その場合の二次交通が不足しているという課題も浮き彫りになっている。
- ✓ 建設費が高騰しており、特に地方に関しては施設の建て替えや大規模改修等にあたり、予算的な問題が非常に大きくなっている。
- ✓ 観光白書は、長期的な視点で真の課題を明らかにするものであるべきだと考えている。観光は行政だけの責任ではなく、民間も大きな役割を担わなければいけないので、全ての関係者が、観光における真の課題は何かということが分かるような内容にすべき。
- ✓ インバウンドの地理的分散が課題と考えている。日本は、文化観光は得意だが自然観光は苦手な国だと感じている。日本には国立公園が 34 あり、世界自然遺産になっているところもある。これらを活用し、どのようにしたら世界の自然観光が強い国に追いついていけるかという視点が大事。
- ✓ 観光産業は薄利であることが課題であると考えている。人手不足は、基本的には給与の問題であり、給与を上げなければ人手不足は解決しない。給与を上げるためには、生産性を上げなければいけない。そのためには、我々業界全体で何をすべきか是非焦点を当てていただきたい。
- ✓ 国内の旅行消費額の8割は、日本人による日本国内観光である。インバウンド市場も倍にするけれども、同時に日本国内市場をどのように維持していくべきかを検討することは重要だ。この点についても観光白書に記載していただきたい。

- ✓ 大型連休の地域別分散を行うことで、国内需要の減少を食い止めることが出来ると考えている。
- ✓ 訪日外国人の旅行消費額、旅行者数は成功している一方、日本人の海外渡航、海外旅行が非常に厳しい状況。インとアウトバウンドの極端なバランス欠如は今後のフライトキャパシティ、2国間取引きにリスクが生じかねない。難しいとは思うが、今後はアウトバウンド促進の予算を取って観光庁としてアクションいただけると良い。
- ✓ インバウンド消費単価について、アメリカと日本を比較すると、宿泊費及び飲食費は同じだが、娯楽サービスは日本は3分の1。旅行者が日本の文化や食に非常に興味を持ってリピートしているデータからも、体験やサービスにお金を落とすような施策にもっと積極的に力を入れるべきではないか。
- ✓ ガイドをはじめとして業界全体の人手不足を、DXを超えて、チャット GPT4o などガイドも可能な生成AIの技術も取り入れていくことが望ましい。若い世代や新技術を用いれば、2030年目標の15兆円も達成できるのではないか。
- ✓ 消費額の回復について、インフレ又は数量のいずれによるものか分析ができると良い。
- ✓ インバウンドに関しては、周遊ルートの再検討は有効だと思う。
- ✓ ビッグデータを使い、こういうルートをたどると最も滞在期間が長く、多くのお金を落としてもらえるかといったような周遊分析を観光白書の中で試験的にやっていただけると良い。
- ✓ ヨーロッパの方から、日本のパンフレットやガイドというのをもう少し欲しいという声もあり、既にあるリソースをきちんと言語化しお示しするという地道な努力も大事。
- ✓ 十分とは言えない既存データにもとづいて観光データが作成されている場合があり、既存データの改善とあわせて観光データの整合性を十分確認すると良い。

以上